

《2026 年 9 月 公開サロン（通算 359 回）「サロン in 台北」報告》

台湾でサッカーやっています！ ー異種サッカークラブメンバーの座談会ー

【日 時】2026 年 9 月 5 日（土）現地 16：00～18：30＝日本時間 17：00～19：00

（終了後、近隣で懇親会）

【会 場】日揮台湾支店会議室およびオンライン（Zoom）

【テーマ】台湾でサッカーやっています！ー異種サッカークラブメンバーの座談会

【登壇者】櫻内渚（新北航源足球俱樂部）、鈴木有樹（JFC Taipei/友達顧問有限公司）、
田嶋浩二（スローモーションズ）、※笹原勉（JFC Taipei/スローモーションズ/日揮台湾支店）
※コーディネータ兼

【参加者 12 名】

注）名前の前の記号は、◎NPO サロン 2002 会員、○会員外のサロンファミリー、無印はサロンファミリー外

＜対面参加 8 名＞

稲葉洋介（JFC Taipei/スローモーションズ）、黒田勇（関西大学名誉教授）、櫻内渚（新北航源足球俱樂部）、◎笹原勉（JFC Taipei/スローモーションズ/日揮台湾支店）、鈴木有樹（JFC Taipei/友達顧問有限公司）、田嶋浩二（スローモーションズ）、◎茅野英一（元帝京大学）、◎中塚義実（NPO サロン 2002 理事長）、

＜オンライン参加 4 名＞

◎小堀徹（フットボール狂）、◎嶋崎雅規（国際武道大学）、○田中俊也（三日市整形外科）、
○野田直広（富士電機・早稲田大学）、

【報告書作成】笹原勉

注）写真・スライドは、クレジットが入っているもの以外は発表者が提供

■概要（8/8 理事長より「通信」にて配信）

NPO サロン 2002 会員の笹原勉さんは 1980 年代、学生時代の中国留学に始まり、社会人となってからも中国、香港、インドネシア、ミャンマー、そして台湾と、海外勤務を重ねて来られました。そろそろ台湾を離れることになるかもしれないタイミングで、念願の「サロン in 台北」を開催します。

2025 年 2 月の公開サロン「台湾駐在の楽しみスポーツ、食べ物、文化」でも紹介されましたが、笹原さんは「今までの駐在地と同様、台湾でもプレーを楽しんでいる。組織がしっかりし競技性の高い JFC Taipei と、おじさんが子供たちも交えて緩やかにミニゲームを楽しむスローモーションズの両方に参加し、毎週末に球を蹴っている」日々です。

https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2025/2025-2.pdf

この両チームの関係者に、スケジュールが合えば元磐田の台湾プロリーグ選手を加えて、3～4 名での「座談会」を行います。

「詳細はこれから詰めますが、まずは 9 月 5 日に台湾で公開サロンがあることをご承知おきください」とご案内していましたが、登壇者が確定しました。日本から&現地からの参加者とともに盛り上がりましょう！

おまけ）中塚は 9 月 1 日に台湾・高雄へ向かい、3 日から台北市内へ、5 日の公開サロンを経て、6 日午後の便で帰国します。1993 年、2002 年と、いずれも 3 月に職場の同僚と「担任団慰労旅行」で訪れて以来、久しぶりの台湾です。9 月 5 日の朝は「スローモーションズ」の活動に参加する予定です。

ちなみにこの日が 65 歳の誕生日です。

<目 次>

■概要（通信より）	■参加者自己紹介（略）	■挨拶	2～3
I. （櫻内）			3
II. （鈴木）			7
III. （田嶋）			10
IV. ディスカッション			15

【キーワード】台湾サッカー、台湾プレミアリーグ、台湾企業甲級足球聯賽、新北航源足球俱樂部、JFC Taipei、スローモーションズ、競技スポーツ、生涯スポーツ、サッカー環境、櫻内渚、鈴木有樹、田嶋浩二

挨拶（中塚/笹原）

NPO サロン 2002 の通算 359 回の月例会、公開サロンにお越しいただき、ありがとうございます。

サロンの第 340 回月例会として 2025 年 2 月に「台湾駐在の楽しみ」というテーマで開催されました。今日は、それ以来の台湾に関するテーマです。

台湾で、それぞれ異なるタイプのチームでサッカーをしている 3 名の方々にお集まりいただき、台湾でのサッカーライフについてお話いただきます。

まずは、台湾でプロサッカー選手として活躍されている櫻内さんからお願いします。

I. 台湾プレミアリーグと少年サッカー指導（櫻内）

(櫻内) 自己紹介させてもらおうと、僕は日本の J リーグで 12 年間現役選手として活動しました。最初はジュビロ磐田に九年間在籍、次はヴィッセル神戸に 2 年間在籍しました。最後は FC 今治で 1 年間プレーして、その後引退もちょっと考えたんですけど、縁あって台湾に来ました。最初は台中 FUTURO というチームに 2 年間お世話になりました。今年から新北航源というチームに移籍して、まだ現役選手としてプレーしています。

台湾に来て、台中 FUTURO でアカデミーの子どもたちを見るようになって、僕がまず感じたのは、サッカー人口は僕が思っていた以上に多かったこと、でもサッカー環境を考えた時に、まだまだ日本と比べると物足りない部分があるということです。僕が日本から来て、プレー面もそうですけど、子供たちに何ができるかという風に考えた時に、やっぱり台湾の子供たちにプロ選手の本物を知ってほしいということで、1 年目に台中で ABC マート協賛のサッカー教室を開きました。ゲストとして松井大輔さん、駒野友一さん、伊野波雅彦さんに来ていただいて、サッカー教室を開きました。参加人数は百名近く集まって、その中で選考されたメンバーを大阪遠征に連れて行きました。国際交流も含めて、日本の同年代のトップレベルを知ってほしいという目的です。そこで子供たちを見ていて感じたのは、台湾だと知ることでできないないサッカーの知識が多くあるなということです。新しい練習をした時に、自分で考えてプレーするというのがまだまだと感じました。

正直言って、僕は 1 年しか台湾にいないつもりでした。けれども今は、みんなに笑われるかもしれないですけど、台湾のサッカー環境、サッカー文化を変えたいと思って、台湾でプレーをしながら、子供たちがサッカー選手になりたいという夢に近づくようなお手伝いをさせてもらっています。

(笹原) 台湾の子供たちのことだけでなく、ご自身のこともお話しただけませんか。現地にいても、台湾のプロリーグのことって意外にわからないんですよね。その辺のことも教えてもらえると助かります。

(櫻内) 台湾には、本当にプロリーグと呼べるものはないと思います。例えば、台湾トップリーグには大学生が多く参加しているというか、大学生主体のチームも多くあります。日本だと特別強化指定に認定された学生が J リーグに出場することはありますが、基本的には学生はプロリーグに参加することはありません。こちらは大学のリーグにも出ながら台湾のトップリーグに出るっていう二重登録のように思えるプレイヤーも非常に多いです。そこは本当に日本と台湾の違いなのかなと思います。

- (鈴木) ちょっと前には、JFC にも台湾プレミアリーグの選手が参加していました。
- (櫻内) 本当にプレー環境は違いますね。日本だとスタジアムで何千人何万人の観客がチケットを購入して観戦しますが、台湾リーグは観戦は無料です。
- (稲葉) Jリーグの前身の日本リーグでさえ、入場料が 500 円程度だったと思います、あの当時の物価でも安いなと思ったんですけど、台湾では、お金をもらうことになぜ抵抗するのでしょうか？
- (櫻内) 僕が感じているのは、スタジアムでその試合をするという環境がまだないと思います。本当に大学の敷地内のグラウンドや、ロッカーもない環境で試合をします。
台中の試合会場に行くと、会場外のどこからでも試合が見えるので、チケットを購入しなくても見られるという環境が、チケット販売を難しくしているかもしれません。
- (田嶋) 正直、台湾の人で台湾にプロサッカーリーグがあることを知ってる人はいない。誰に聞いても、えっ？って。
- (櫻内) いないと思います。僕もマンションに住んでいて、スパイク持っている時に住民の方に「サッカーしてるの？」と聞かれたので、「プレイヤーですよ」と答えたら、まず「台湾にサッカーリーグあるのか、コーチじゃないのか」という反応です。「いや、コーチじゃなくてプレイヤーだよ」と言ったら、「そんなのテレビで放送されてるのか」と言われて。いや、されてない。
- (田嶋) YouTube でしか。YouTube でも全然見てる方は少なく、回転数が 1000 回いかない程度です
- (櫻内) 台湾の中では、サッカーというのは本当に認知度が低く、サッカーを知っていても、台湾リーグが行われている認知度とえば本当に低いと思います。
- (笹原) 野球のトップリーグは、職業棒球大聯盟ですね。ところがサッカーは企業甲級足球聯賽、あくまで「企業(実業団)」であって、野球のような「職業(プロフェッショナル)」ではないですね。

5/33

スポーツ：プロ野球

プロ野球リーグ(中華職業棒球大聯盟)

- 1998年4チームで発足
- 八百長問題による人気低迷
- 2013年 WBC ベスト 8 で人気再燃
- 2024年から6チーム制
- 年間120試合、24回総当たり戦



スポーツ：サッカープレミアリーグ

プレミアリーグ(台湾企業甲級足球聯賽)

- 2017年8チームで発足
- 2018年乙級(2部)発足、入れ替え戦
- シーズンは4月～12月
3回戦総当たり
- 2024年は1位：南市台鋼、2位：Futuro

代表チーム

- W杯アジア予選2次予選D組
6戦全敗(オマーン、キルギス、マレーシア)



(中塚) 台湾のプロ野球も 98 年発足なので、そんなに古くはないですね。チーム数としては 2017 年発足のサッカーの方が多いですね。台湾でプロスポーツって言ったら、何だろう、野球、サッカー。あとは？

(櫻内) バスケットと野球が人気だとは僕は聞きました。

(笹原) なるほど。国内プロリーグというか、トップリーグとしては？

(田嶋) バスケット、バレーボール。

(稲葉) 台湾の人に聞いた時に、プロを目指す子供たちの中にも、その素養がある場合でも、小学校、中学校から上に上がっていく時に、親が辞めさせてしまうと。
ちゃんと勉強するようなどこに行かせるから、両立もできないし、環境もないから、せっかくものすごく金の卵みたいなのがあったとしても、残念です。

(櫻内) 本当にそれは僕も感じていて、小学校、中学、受験が始まると、やっぱりサッカーから離れる。子供たちの意思としてはサッカーをやりたいけど、親がやめさせて、いい大学、いい高校に行きなさい、いい中学に行きなさい、と言うのは、本当によく聞く話です。もったいないなという選手はいるのに。

でもやっぱり正直保護者目線から考えると、失礼かもしれないですけど、台湾サッカーリーグがそこまで充実していない。サッカーだけでご飯を食べられるかといったら、全員が食べられるわけじゃないと思うので、保護者からしたら、そのリーグに子供を夢を持って預けるということは、今の環境的にはやっぱり厳しいのかなと。そこでやっぱり僕が活動しているのは、目指すところの視点を変えて、台湾リーグだけではなく日本の Jリーグなどの国外も目指してほしい。それと同時に台湾リーグも良くなってレベルがちょっとずつ上がっていけば、目指す人も増えるのかなと僕は感じています。近くに日本があるので、日本への留学も僕は斡旋したいなと思っています。僕は、そういうことも考えながら、サッカー教室、日本での大会に臨む、そういう活動につながっているのかなと思います。

(笹原) 日本の強豪高校サッカーチームなどに行ってる人は、少なくないと思いますね。

- (櫻内) そうですね。今の台南のチームに、大阪体育大学に行って、こっちに戻ってきた、という選手もいたように、大学で日本に行ってプレーして、台湾リーグに戻ってくるというのは最近聞きますね。
- (田嶋) やっぱり国代表もなんか力をつけてくると、人気が出てくるかなとも思うんですけど。
- (櫻内) それは本当にその通りですね。もし台湾がワールドカップに出場したら、またガラッと変わります。今はどちらかというと女子の方がワールドカップに近いと言われています。この間日本代表とやって、0 対 2 で負けちゃったんですけど。アジア大会が日本で行われるので、今女子の方はそちらに向かっています。
- (稲葉) そこから、切り口にしていくかもしれないですね。
- (櫻内) 最近、日本の名前を持っているけれども、台湾の代表に選ばれている選手が出てきていますね。今回の代表でも何人かいるんじゃないかな。
- (中塚) ちなみに北中米のワールドカップの予選では、台湾はどんな感じだったんですか？
- (櫻内) 男子は多分一勝もしてないのかな、予選の最初の方で負けてます。男子の台湾代表になっても、そこまでのプライドがないというか、ステータスが低いのかなと。代表に呼ばれた選手が平気で断るんですよ。なぜかと聞いたら、子供を見ないといけないという理由で、ですよ。日本だと代表に呼ばれたら本当に名誉があって、それで自分の商品価値がどんどん上がっていくじゃないですか。でも、台湾の男子の感覚を聞いてみたら、台湾男子代表に入ってもなあ、という感じです。
- (黒田) 主観的でいいんだけど、代表のレベルはどんな感じですか？例えて言えば。
- (櫻内) 私の主観であれば、代表選手を選ぶには、監督が毎試合視察に来て、というのが当たり前じゃないですか。ところが、視察してない状態でメンバーを選ぶこともあるようです。以前、怪我をしていて一試合も出ていない選手が代表に呼ばれたことがありました。そういうことが行われていたら、ちゃんと選手として評価しているのか、という問題にもなりますよね。今は変わっているかもしれませんが。代表監督が注目する試合をしっかりとチェックして、いい選手を選んだ方が絶対代表としては強いですし、そうしないで、情報不足で選んでしまうと、さっき言ったように怪我人を選んでしまったりして、代表のレベルっていうのは上がっていかないと思います。
- (笹原) ワールドカップ予選、見に行きましたね。すぐそのスタジアムのマレーシア戦。会場はガラガラで、ハーフタイムになってやっと人が来るみたいな感じでした。結構立派なスタジアムでの代表戦でも、入場料は取られなかった。
- (中塚) 台湾サッカーの改革が必要ということで、元滝川第二高校監督の黒田和生さんが何年か前まで関わっておられたじゃないですか。残念ながら病に倒れて帰国されましたけど、いつ頃の話でしたっけ？

(櫻内) 僕が来る前の話だと思うので、結構前だと思いますね。協会の制度というのは、正直僕も分かっていないので、そういう話を聞くと、組織としてやっぱりもっとやらないといけないんじゃないかなっていう感覚にはなるのかなと。

(笹原) どうもいろいろなお話ありがとうございます。外から見る話になってしまうんですけど、台湾サッカー界にもっと頑張ってもらいたいなというところは、皆さん感じるところかなと思いますね。

続いて、JFC の団長でいらっしゃる鈴木さんから自己紹介とチームの紹介をお願いします。

II. JFC 台北（鈴木）

(鈴木) JFC 台北の団長をします鈴木と申します。よろしくお願いします。

まず、JFC 台北自体は発足が 2000 年で、今年 26 年目になります。今の部員数としては、今大体 60 名ぐらいが登録している。企業駐在員がメインなんですが、学生もたまに入ってきたりと、幅広い年齢層でやっているのが、JFC のいいところですかね。

さっきのサッカー環境でいうと、私が来訪した 2008 年頃は、台北は本当にサッカー不毛の地で、グラウンドも何もなかったです。河川敷の方に行くと、やっと野球とバスケとかという状況で、JFC の活動をするのに、まずグラウンドを探してというのがずっと続いていました。転機になったのが 2019 年に開催されたユニバーシアードですね。そこで初めて人工芝のグラウンドができたりして、設備面がすごく整ってきました。それまで見なかった、サッカー教室の子供たちも見ようようになってきて、私の肌感覚ではこの二十年でかなり進歩しているのかなとは思いますが。ただ、まだまだというのを感じながら、日々活動をしているところです。

JFC の方針でいうと、台湾に住んでいるサッカーを愛してやまない日本人が、年齢も、レベルも、経験も関係なく、一緒にサッカーを楽しみ、勝利を目指して頑張ろうというところです。60 歳のメンバーもいれば、学生もいますし、女子もいるので、ベースとして相手を思いやって尊重し合いながら、メンバー同士仲良くやっています。

活動に関しては、これも部員が多いので、キャプテンを中心に方針を決めてから、グラウンドを確保したりリーグ主催者側と連絡を取ったりする渉外係とか、ユニフォーム係だったり、会計係とか、宴会係とか、いろいろ割り当てて、なるべくみんなが楽しくやりながら活動できるようにしています。サッカー面でいうと、どこかのレベルで楽しくサッカーができるように、3 つのリーグに参加しています。1 つが外国人リーグというもので、これはホッケールールで、何回でも出たり入ったりができるので、少しずつでもやりたいなという方が参加することが多いです。日本ではなかなか西洋人とかアフリカ系の選手とやることがないので、これもいい経験になるかなと思います。もう一つは BML(ビジネスマンリーグ)というのがあって、これは一回出たらもう入ってこれられないので、ガチガチでやりたいメンバーはそこに参加しています。25 歳以上という年齢制限があって、学生は基本的に参加できません。あと 8 人制の松山カップっていうものに参加して、これは年齢制限なしと 25 歳以上のリーグに参加しているので、ここで緩めにやりたい方とか、怪我明けの方も楽しめるようにとりあえず環境は整えています。他には年に 1 回、アジアの駐在員のサッカーチームが集まる大会で、年齢制限のない J Asia Cup と、40 歳以上の OJIN Cup というのがあって、これに参加して一致団結、みんなで楽しめるようにはしています。

次に方針として大切なところで、台湾への感謝ということがあります。こうやって日本人の僕たちが台湾の地でサッカーができるというのは、もちろんグラウンドがなければならぬですし、審判もいなければいけないと。あとは運営するリーグの方もみんな台湾の方がやってくれているので、そういう環境で、こうやって台湾でサッカーができることには感謝をしようという方針でやっています。その感謝をどうやって返していこうかというところで、地域貢献とか、あとは生意気ですけど、台湾のサッカーの発展にちょっとでも寄与できたらなと思っています。例えば、J-Fes と言って、JFC で企画して、例えば先ほど話の出た代表がやるようなグラウンドを借りて、地域のチームの人を呼んで交流をしたり、普段できないグラウンドでプレーする体験をしてもらうイベントもあります。あとは、リーグを通して審判とか相手チーム、地元のサッカー協会のチームなど、現地のサッカーコミュニティといろいろ密に連絡を取って意見交換もしています。更なる地域貢献としては、日本人学校の課外活動のサッカーのコーチをしており、日本と同じような環境でサッカーを楽しめる、楽しませてあげたいなということから始めています。あとは本当に些細なことですが、ちょっとでも何か力になればと思って、台湾の方々がやっている海岸清掃活動にみんな参加しています、数はいるので。ちょっとでも台湾のためになればいいと思っています。

こういうチームなので、毎年メンバーの入れ替わりがあるんですね。今卒業者が 500 人ぐらいいます。帰国する方から、JFC を通して生活が楽しくなった、充実したものになったと言っていた時はずっと嬉しかったですし、すごくやりがいを感じるので、こういう活動を、台湾にも感謝しながらずっと続けていきたいとは思っております。以上です。

(笹原) 皆さんサッカーを楽しむ、楽しみながら勝利を目指すっていうところが、一番の肝かになって思いますね。僕も何か国かで日本人チームでサッカーをやってきたんだけど、こんなにきちんとしたチームは初めてですね。

(鈴木) 逆に言うと、例えば大陸の方の大きな都市とかに行くと、サッカーチームが何個もあるので、レベルに合ったところに入るといえるところがあるんですけど、先ほど言ったように、20 年前には本当にサッカーチームなんて全くなかったんですよ。JFC という団体しかなかったんで、みんな本当に年齢関係なく入ってそこでやる。その後も分母が大きくなればなるほど、じゃあみんな楽しむためにどうすればいいかいろいろ考えて、組織もちゃんとして、みたいな感じになったのが、他と違うところなのかなと思います。

(笹原) いろんな年代の人がいるっていう点もユニークですね。僕は、この前にいたのが北京ですけど、試合しかしてないし、試合も一つの大会にしか参加してないと、やっぱりオーバーエイジになるととてもついていけなくなるので、自然と若い人だけになっちゃう。だけど、JFC の場合、いくつかのリーグに入っていて、それぞれのレベルで本気の試合ができるっていうところはかなり大きいですね。私なんかも 59 歳で入ったんですけど、松山カップでは試合中に骨折するほど真剣にプレーをさせてもらっています。

一方、これからスローモーションズの話もありますけど、JFC は、楽しみながら勝利を目指しており、スローモーションとプロの間の非常に広い層をカバーしていると思います。おそらく大学以降、同好会的な組織がどこも抱えるジレンマだと思うんですけど、人によって何が楽しい

かが違って来るはずですよ。そこのところの折り合いをどういうふうにつけていくかっていうのは、団長やキャプテンが非常に苦労されてるのではないかと思います。

(鈴木) ええ、難しいですよ。リーグ戦は、試合に行った人は必ず出られるようにしています。好きな時間だけで、ちょっとだけで良いというのももちろん可能です。

(中塚) さっき言われた 3 つのリーグは、メンバー登録の仕組みはあるんですか？例えば、ちょっと今日は人数足りないから助っ人呼んでくるというのは…。

(鈴木) どのリーグもそこら辺はしっかりしていて、ちゃんと登録はします。一番最後に言った、8 人制の松山カップは若干緩めに運営されています。プレーレベルも緩い感じです。

(中塚) この後のスローモーションもそうかもしれないけど、基本的に日本人が対象なんですね。

(鈴木) 私たちの場合は、日本語でコミュニケーションを取れば、国籍は特には決めてはいないです。日本人のコミュニティとして始めたものなので、日本語はベースにあります。

(中塚) 皆さんはここ台湾で、日本語でコミュニケーションが取れない地元の人たちと暮らしているわけじゃないですか。その人たちはサッカーやってるんですか？

(鈴木) そのリーグに入っている他のいろんな国のチームとかもあります。外国人リーグでいうと、南米系もいますし、ヨーロッパ系、アフリカ系も結構いますね。BML(ビジネスマンリーグ)では、東南アジアのチームも最近は参加していますが、台湾のチームが多く、プレーヤーも台湾人がほとんどです。

JFC も別に外国人がダメということではなく、入ってきた方もいるんですけど、日本語でコミュニケーションを取っているので、結局あんまり長く続かなかったですね。

(中塚) 20 年前は、サッカーの環境が全くなかったとおっしゃっていましたが、日本人コミュニティだけじゃなくて、台湾の人たちにとっても同じですかね。

(鈴木) 台湾の人にとっても全然なかったもので、私たち日本人が来た時に全く楽しめるものがなかったという状況でした。

(黒田) ビジネスマンリーグには台湾人のチームが結構あるとのことですが、この人たちは台湾で子供の頃からやっていた方ですかね。

(鈴木) なかなかそこまではわからないですけど、レベルも様々です。一つ言えるのが、ビジネスマンリーグの協会の方の関係のチームが結構あるので、元々代表だった人とかが作ったチームもあります。

(田嶋) あと私聞いたことあるんですが、軍人が強い。

(稲葉) 空軍 OB のチームが参加する大会に呼ばれたんですけど、3 ヶ月ぐらい前にパスポートも何も全部出さなきゃいけないから、やっぱ無理だなと、参加を断念しました。

(田嶋) 駐在員という枠組みの中で、11 人揃えるのも結構大変じゃないですか。

(鈴木) 最近でいうと、大体集まるのが 1 試合で 20 名前後ですね。多い時には 30 人ぐらいになったりします。BML に出ようとするガチのメンバーは、最低 45 分は出たいと思っているので、もっと出たいという人は、午前と午後のダブルヘッダーで出たりしています。プレーをする機会だけは与えようと思って、そういう取り組みをやってます。

(笹原) 時には、一日 3 試合という時もありますよね。全部出てる人もいて、櫻内さんもびっくりじゃないですか？

(櫻内) そうですね、一日 3 試合なんて考えられないです。

(稲葉) FUTURO さんと言えば、JFC と一緒に練習してもらいましたが、あの時に来られたんですか？森本選手がいた時です。

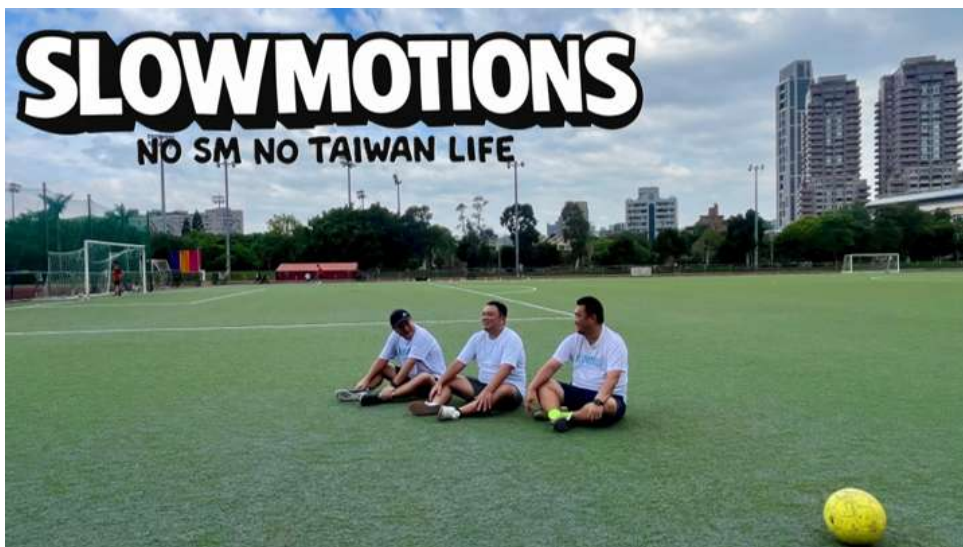
(櫻内) 僕はかぶっていないので、参加してないです。

(稲葉) 森本さん、草サッカー程度だと思ってやって来られたと思いますが、結構、真剣に練習に付き合ってもらえたと思います。。しっかり活動しているとおっしゃってました。

(笹原) どうもありがとうございました。では、トリを務めていただく田嶋さん、お願いします。

Ⅲ. ゆるやかにサッカーを楽しむ 田嶋 (スローモーションズ)

(田嶋) スローモーションズの田嶋です。よろしくお願いします。



我々は、まあ緩くやろうというようなモットーで、チーム名に SLOWMOTIONS っていう名前をつけてます。通称でスロモと言っています。



(田嶋) ちょっと写真見ていただいて、左上は、台湾独特の朝飯ですね。台湾では非常に朝飯が有名なんですけど、実はスロモを始めたきっかけです。私はもともと JFC にお世話になっていたのですが、途中で台湾人の妻との間に子供ができました。JFC は結構拘束される時間が長いんです。私が土日にサッカー三昧という形になると、家庭的に居場所がなくなるというような状況がございました。でもやっぱりサッカーやりたい。そこで、妻にどうやったら許してもらえるかなというのを考えて、朝飯買ってくるから朝サッカーやらせてくれと。そういうような建て付けで、始めました。

当然、私一人じゃできないんで、当時は7時半から8時半っていう時間帯だけ、家族連れの日本人が多く住む天母というエリアで一緒にボール蹴ってくれる人がいないかなと声かけて、最初4人が集まって始まりました。今は非常に人が増えてまして、開催時には通常 20-30 人集まるような大きなコミュニティになってきています。右下に今朝の写真を載せたんですけど、中塚さんも写っています。楽しんでいただけたと思います。朝っぱらから、負けたチームは変顔をするというのが恒例の取り組みになってます。

スローモーションズ（スロモ）概要

①会費/名簿なし：場所代ゼロなので。金を集めると誰かが名簿を作り会計処理をせねばならず面倒
②ひたすらミニゲーム：ボールタッチ回数重視。フルコートは正規ユニ必要。且つ怪我のリスクUP
③子ども・女性参加可：親が参加していれば子どもも参加OK。（これがゆるさ維持の秘訣？）

始まり：2017年頃（記録なく不明瞭）
Line上メンバー：86名（OB含む）
活動時間：毎週土日祝 朝7:30-9:00
（3月～11月はサマータイムで7:00-8:30）
活動場所：台北市天母運動公園サッカーグラウンド
内容：開催時は毎回20-30人集まる（子ども含む）
降雨時不参加変更自由。3人集まれば開催
参加人数に応じコートの広さを調整（2面、3面でやる場合もあり）
10分リフティング（30回）、70分ミニゲーム。3-6分ハーフのゲームを2回やったらメンバー入替
適当にメンバーを分け白or色シャツでチーム区別
月1でスロモカップ開催（その日はチームメンバー固定で約8-10ゲームやり順位決める）
不定期でBBQ、キャンプ、ゴルフ、釣り、登山などスピンオフ活動あり

<スロモルール>
①スライディング禁止
②誰かが転んだら中断
③指示、要求しない
④無理しない、諦める

こちらがスロモの概要です。一番上に特徴を入れているんですけど、会費とか名簿はないです。なぜかという、場所代がかかりませんし、お金を集め始めると、誰かが管理しなきゃいけない

い。先ほど JFC は組織とし非常にしっかりしてるとの話がありましたが、我々は組織というのを作らないというやり方をしています。二番目に、とにかくミニゲームしかやらない。JFC の真逆かなと思うんですけど、フルコートではユニフォームを揃えとか、そういった面倒が増える。あと怪我をしたくないというのもあるし、ボールタッチを多くしたいということで、ミニゲームだけやってます。三つ目で子供も参加 OK ということにしています。当然小さい子供だと怪我のリスクとかもありますので、小学生以下の場合は親が参加することを条件にして、中学生だったら、親がいなくてもいいよということにしています。それがプレーの緩さの維持にもつながっているというふうにも感じています。

始まったのは、2017 年「頃」と言っているほど、ゆるく始まった感じです。

管理してないんですけど、メンバーは今のところ LINE 上では 86 人。もう日本に帰られて、この会に参加できない人も含まれています。LINE から早く抜けてくれと言ってるんですけど、抜けてくれません。困ってます（笑）。

活動時間としては土日祝日、休みであれば基本やる。時間は通常 7 時半から 9 時まで、今ちょっと人数が多くなってるんで、1 時間半やっています。今は暑いから 7 時から 8 時半、今日も 7 時からやってみました。

活動場所は、先ほど申し上げました、天母にある運動公園のサッカーグラウンドです。先ほど JFC の話にありました、ユニバーシアードの時に整備された人工芝のグラウンドです。

LINE で出欠を事前登録していますが、雨が降ったら自主判断、3 人集まればやるというルールです。参加人数に応じてコートの広さを変えています。今日は 5 対 5 ぐらいでしたのであの広さ、1 チーム 6 人、7 人だともうちょっと広くしたりって調整をします。中塚さんもお覧になってお分かりと思いますが、台北、台湾だからできることです。ほかに誰も使っていないので。

最初に 10 分ぐらい円陣リフティングをやってから、残りの時間はひたすらミニゲームをやり、メンバーを交代しながら飽きないようにしています。月一のペースで、固定したチームで順位を決める、スロモカップというのもやってます。

スロモがなぜ生まれたか



時間が限られる

週末の早朝でも 9 時までに帰れば良い

怪我できない

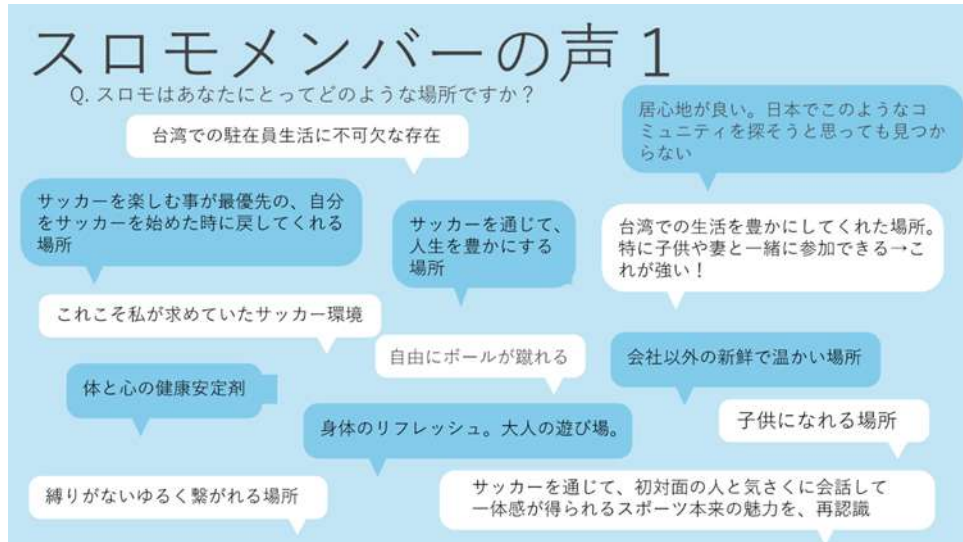
スライディング禁止、GK なし、無理しない

皆そこそこ偉い

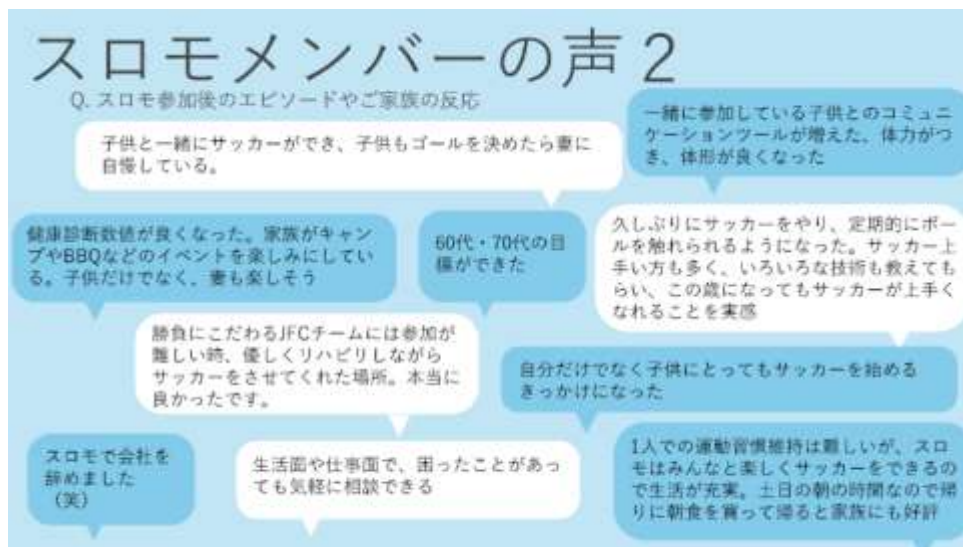
3 人いれば開催ルール

「時間が限られる」ので、週末で朝 9 時までに家に着けるような時間帯をまず設定しました。「怪我できない」というのは、やっぱり駐在員という事情があって、大怪我して仕事に支障を来すとか、出張できなくなるとかいうふうになると困るので、スライディング禁止だったり、ゴールキーパーなしというルールを作りました。ゴールキーパーをやるとどうしても手を怪我

したりするので。「皆そこそこ偉い」駐在員で、地位の高い人だったり、出張や会食が多いとか、土日祝日も対応する必要があるという事情があるので、もともとのメンバーは4人だったのですが、全員集まらないうとできないというのも困るので、3人いたらやろうと決めたのが、3人ルールのかっかけです。



スロモも長くやってきて、人数も多くなったので、今回の発表を機会にアンケートを取ってみました。まず、メンバーにとってスロモはどんな場所ですか、という問いには、「台湾での駐在員生活に不可欠な存在です」とか、「最初にサッカー始めた頃に戻してくれた」、「自由にボールが蹴れる」、「子供になれる」、「縛りがなくて、ゆるくつながれる」、あと「居心地がいい」、そんな声がありました。



スロモに加入してどんなことがありましたか？ご家族の反応どうですか？というようなことを聞いてみたら、「子供と一緒にサッカーができるのでいい」と。「子供もゴール決めたら妻に自慢している」。あと「60代・70代の目標ができた」というのは笹原さんのことですね、こんなおじさんになってもできるんだと。「自分だけでなく、子供にとってもサッカー始めるきっかけになった」というのもありました。

JFCをディスってるわけではないですが、「勝負にこだわるJFCではサッカーが難しい時にリハビリしながらスロモに参加できて良かったです」という意見もありました。

「スロモで会社を辞めました」という人は本当にいらっしゃいます。スロモで悪いことがあって辞めさせられたのではなく、スロモを継続したいから会社を辞めたということです（笑）

スロモが成立する背景

台湾だからこそ成り立つシステム

・サッカー人気が低い	➡	・会費不要
・高品質のグラウンド		・名簿なし
・予約不要、使用料なし		ゆるい繋がりで
・朝7時に行けば自由に使える		持続可能

日本や諸外国では予約必須、グラウンド代必要で
運営メンバーや名簿・金銭管理が必要。
スロモのようなゆるいサークルはなかなか成立しない

どうしてスロモの活動が成立するのかなと私も改めて考えて、やはり台湾だから成り立つんじゃないかなと思ってます。台湾のサッカーを盛り上げたいと言ってらっしゃる方に対して申し訳ないですけど、とにかくサッカーの人気が低いんですね、台湾では。スパイクが買えないぐらいです。それなのに高品質のグラウンドがある。天母の先ほどのグラウンドは予約はいらない、使用料も取られない。昼間のみんなが活動する時間帯だったら埋まるんですけど、朝7時に行ったら誰もいなくて自由に使えます。ただ、大会が年に数回入ってることがあって、その時には使えなくなりますね。一応我々はあそこを第一グラウンドと言ってるんですけど、第四まであります。使えない日は、「今日は第三に行こう」と近くの小学校のグラウンドに移動します。台湾の多くの学校がグラウンドを開放していて、自由に使えるんです。しかも人工芝。日本ではちょっと許されないですね。

そういった状況があるからこそ、会費もいらない。時々「会費いくらですか？」と聞かれて、「いや取ってないです」と答えるとびっくりされます。名簿も作ってません。とにかく組織っていう形になると、やっぱり抜けたりしたらまた面倒なんで。そうした感じでゆるい繋がりができると思ってます。逆に言うと、皆さんの今後の参考になるかわからないですね、他の国ではなんか成り立たないんじゃないかなとは思ってます。以上です。

(中塚) スロモメンバーの声の中で、日本でこういうのを探したけどない、というのもありましたね。

(稲葉) あのグラウンドの様な場所を日本で探して予約したら、1時間5、6千円ぐらいするんじゃないですかねよ。しかも2ヶ月前から予約とか言ってね。

(田嶋) 帰国した多くの人が、「そういう環境がなくて寂しいよね」と言ってますね。

(中塚) 今日初めて参加させてもらって、7時前ぐらいに会場に着いたら、メンバーが三々五々集まっておられましたが、それ以上に目についたのはトラックを走っている人たちでした。最初は大学生の部活みたいなものかなと思ったけど、違いますよね。おそらく走りたいおっちゃんたちが走ってるんですよ。毎週ああいう感じなんですか？

- (田嶋) そうですね。朝はもう走っている人が大体固定ですよ。
- (笹原) 今日は、朝大雨だったから、バスケットボールコートやテニスコートには誰も人がいなかったですけど、普段はあそこもいっぱい。朝からおじさんたちがプレーしてます。
- (田嶋) 会場は、一応台北市立大学が所有・管理している体ではあります。天母運動公園サッカー場という名前ですけど、あそこで忘れ物をしたら大学側に届く。
- (笹原) 中塚さんは今日参加されてよくわかったと思うんですが、実は我々も筑波大の学生の頃に少年サッカーのコーチやっていて、その子供たちが中学に行くとサッカーの環境がないので、その子供たちを集めて大人も一緒にサッカークラブを作ろうという活動を始めました。その場所も、同じように近くにあった図書館情報大学という大学のグラウンドでした。誰も使っていないので、勝手に集まって、まず円陣リフティングをしてからミニゲーム。スロモと全く同じでした。地面は土、背の高い草を芝刈り機で刈ったこともあります。
- (田嶋) こちらでも無料で使ってくださいという大学がどんどんオープンしてるんですけど、草なんです。草になってるとまあ無理ですよ。これだけ雨降って暑いじゃない。あつという間に 10cm 20cm になるから。本当に人工芝というのは大きい。
- (中塚) 今日スローモーションズに参加して、一昔前のまだ良き時代に筑波でやっていたことを思い出しました。バルバロスという名のクラブです。今日のスローモーションズは、バルバロスと一緒にやなというのが、終わってからの感想その 1 です。でもバルバロスも、すでに終わっています。日本でなかなかそういうのがやりにくいのでしょうね。

IV. ディスカッション

- (笹原) 参加者のみなさん、特にオンラインの方、今 3 名の方々の紹介を伺って、何か感想とかコメントとか質問とかございませんか？もうここからは皆さんの自由な意見交換にしようと思います。
- (野田) 小刻みな感想を申し上げますと、バルバルスの話は懐かしく思い出してました。それと私は上海にしばらくいたんですけども、台北はだいぶ違うんだなっていうのをお話聞きながら感じてました。
上海は 90 年代に日本人学校の先生とか駐在の方が中心になってクラブが立ち上がって、やる場も中国人のプレーヤーも非常に多くて、私 2010 年代に 7 年間駐在してたんですけども、やる場所はない、お金もかかる、やってる人もとてつもなく多いという環境でしたので、今台北の立ち上げの頃の話っていうのは、ちょっと別世界の話のような感じでしたね。

私がいたチームはインターナショナルリーグという、上海に来てる外国人のリーグが二つ存在してまして、その二つともにチームを出していました。強い方のリーグは、うちのチームにも元 J リーガーとか複数名いたんですけど、それでも勝てないぐらいのレベル感でした。もう一

つは、まあ私とかが出て一応やれるレベルですから、知れていますが。あとは日本人チームだけのリーグもありました。中国の方の活動は、全部はわかりませんが、会社にもサッカーやってるメンバーが多くいて、一緒にプレーしていました。とてつもなくサッカー人口がある、活動があるっていう感じでしたね。

- (笹原) 私も 2004 年から 2010 年に北京にいたのですが、サッカー熱はそれほどでもなかったですね。我々のチームも外国人リーグに参加していましたが、試合のない時にも比較的練習試合のグラウンドは取れた感じでした。
- (野田) 今お話を伺って、JFC の活動は割と私が上海でやってたチームに近いかなと。年齢層も、上は 55 歳とか 60 歳ちょっと前、若者は大学生が来てました。一方、スローモーションズは非常にユニークで、ちょっと行ってみたいなっていう気持ちになりましたね。
- (稲葉) 僕もいろいろな国でプレーしていて、ここではスロモにも参加しているのですが、他の国でもそうでしたが、この様な自由参加型の場合は、コアなメンバーがいないとダメだと思います。スロモでは田嶋さんが中心になってくれているのが大きいですね。毎週 80 人いるメンバーに Group LINE でコミカルなメッセージを送ってくれます。コミカルで、時事ネタも入れて皆さん読みたくなり、毎回、楽しみにしています。そして、最後には出欠登録を促している。
- (田嶋) 単純に、ざっくり人数を把握したいだけです。今日は 2 面だけだったので、備え付けのミニゴールで足りたんですけど、人数が多くなると 3 面作るためにミニゴールを持っていく必要があります。最大 4 面作ったこともあります。なので、人数をざっくり把握したいのです。毎週木曜日にメールして、土日に参加する人数を確認するんですが、ただの事務連絡でなくネタを入れた方が面白いかなと。
- (稲葉) 面白い。だからみんな OB も絶対抜けないですもんね。
- (笹原) やっぱり駐在員のチームだと帰国してしまう人が多いのですが、田嶋さんのように帰国しない可能性の高い方が継続的にまとめているというのは、なかなかいいですね。一方、JFC の場合はそれを克服するために、組織として誰が交代してもできるような形にして、キャプテンや、会計などの係も交代しながらやってるっていうところが素晴らしいですね。
- (小堀) 先ほどスロモの話で、すぐ行ってすぐ使えるという話がありましたが、日本だと公園でボール遊びできないところが増えてるので、羨ましいなと感じました。
あと私も上海に 2004 年から 2007 年までいて、上海ジャパンフットボールクラブっていうところに所属していました。平日の夜 8 時ぐらいから 10 時ぐらいまでグラウンドを抑えて練習をして、週末は外国人リーグっていうのを作って各国の方々と試合をやった記憶があります。各クラブがお金を出し合って、中国人の方の審判を呼んでリーグが成り立っていました。メンバーは皆さん駐在の方とか留学されてる方とかで、私が一番上ぐらいだったような気がします。
- (野田) それは私がいたチームですので、小堀さんは私の先輩ですね。重なってはいませんが

- (笹原) 海外じゃないですけど、茅野さんも、神奈川県でサッカーチームをずっと運営されていましたが、少し似てるような部分もあるんじゃないですか。
- (茅野) かながわクラブというクラブで、最大今でも 300 人ぐらいの規模で、横浜の港北区で展開しています。メインのグラウンドは港北小学校の学校開放で、日曜日の朝 8 時から夕方まで活動しています。シニアを作ったのは、小学生を見ていたお父さんたちがグラウンドに下りてきて、まだ明るいうちにボールを蹴り出したのがきっかけです。そのうち、放っておくと近所にボールを蹴りこんでしまったりして、少しコントロールしなければという必要があり、さらにはどこか試合相手を見つけないという声や、ユニフォーム作ろうという声があって、じゃあ作りましょうということになりました。神奈川県には年代別のシニアリーグがあり、横浜市内にも横浜市サッカー協会がシニアのリーグを運営していたので、それらに参加していました。最初立ち上げた時に、30 名ぐらいから始めたのが、だんだん人数が多くなって、勝ちたい、もっと上に行きたいという人がいた一方、かながわクラブでサッカーを始めたとか、初めて選手登録をしたというお父さんがやっぱり 2/3 ぐらいいました。それで二つに分けて、片方は県リーグの 1 部まで行きましたが、片方は 4 部制の 4 部を結果的に定位置にしているという二つのチームで運営してました。僕は 4 部定位置の方を担当したんですけど、試合に来てくれたら少なくとも 10 分は試合に出すと決めていました。うちの特徴は、毎週日曜日朝 8 時から 90 分間、小学生のグラウンドの一部を使っていたので、お金もちゃんと取って、そのお金を中学生の運営に回していました。というのもかながわクラブは、単独のチームではなく、小学生から社会人まで全種のカテゴリーを持っていて、私はシニアカテゴリーだけではなく、クラブ全体のプロモートもやってました。
- (笹原) 黒田さんはお仕事の関係もあって、海外もいろいろ回って、ストリートサッカーでいろんな人がプレイしているところをご覧になっていますよね。
- (黒田) その前にちょっと疑問が湧いたんですけど、台湾なり上海なりには日本人チームができてますよね。でもヨーロッパで日本人チームってあるんですかね？
- (鈴木) ありますね。ロンドンジャパニーズっていうのが確かあったはずですし、JFC の OB でドイツでプレーしている人は、ヨーロッパ各地の駐在員が集まる J Euro という大会に出ています。
- (黒田) なぜ疑問に思ったかというと、ヨーロッパってグラウンドの管理も含めた制度がすごくきっちりしてるじゃないですか。なので、勝手に使うっていうのはできないから、その日本人チームっていうのは完全に向こうの連盟の傘下に入ってやってるのか、草サッカーレベルで別でやってるのか、どっちなんだろうなと思いました。草サッカーレベルだとなかなか借りるのが大変だったりするんですよね。

それで、今日の話につなげて言えば、イタリアには、プロにつながるサッカー連盟と別建てで社会人地域の連盟っていうのがあるんですよ。UISP って言うんですけど正式名称は **Unione Italiana Per Tutti**、日本語に直訳したら「みんなのためのスポーツ連盟」ですね。UISP は、国からの補助金を受け取っていて、全国規模で全種目で百万人ぐらいの会員がいるんですよ。サッカーがやっぱり一番人気なんですけど、すごく階層別で、どのような人でもスポーツができる組織が全国的にあるということなんです。これはなかなか素晴らしくて、日本でもこういうのをやったらなっていう話を現地でしました。日本はまさに学校中心のガッチリした組織があ

って、社会人というか、一般の地域の人が好きなようにやるのも、ちゃんと組織作ってやりましょうという考えが、進んでいない感じが今まではあったんですね。

私は最初は UISP ってというのは理想的だと思って、それをもうちょっとうまく取り入れながら、日本でも各種のスポーツを年齢別にやっていくと、グラウンド不足の問題はあっても、もう少し誰もが自由にやれるような体制ができるのかなって思いましたね。

もう一つ、UISP でのエピソードがあります。私のゼミの学生を連れて 20 何年か前にイタリアに行った際、ピサで UISP のグループと試合をしました。国際試合というので、スタジアムに日の丸が揚げられて、市長も来ました。女子のゼミ生が全員スタンドで応援していたのを見た当時の UISP 副会長から、試合の後「男女で来るって言ってなかったやろ」と叱られました。女子が来てるんなら UISP の女子チームと一緒にやったらいいのにと。我々は、サッカーは男がして、女の子は応援でいいや、と勝手に思い込んでたのですが、UISP はさすがだな、と思いました。

(笹原) オンラインの~~島崎~~嶋崎さんに伺いたいのですが、ラグビーの業界では、こういうプロの世界、あるいは勝負を目指すアマチュア、あとは楽しむアマチュア、そういうような階層のプレーの機会っていうのは日本にはありますか。

(嶋崎) ちょうどお話ししようかなと思ったんですけど、面白い例があります。麻布高校の OB のチームがあって、土曜日の朝 8 時ぐらいから、多摩川の河川敷に麻布が持っているグラウンドでラグビーをやってたんですね。そこにいろんな人が入ってきて、麻布多摩川クラブというクラブになりました。その人たちは別に試合したいとか、リーグに入るとか、そういうことじゃなくて、毎週そこでラグビー楽しめたらいいよねっていう方々です。最後はゲーム形式の練習もするみたいですが、結構な人数の人が毎回 3、40 人は集まっているようです。たまには試合もということで、小山台高校の OB のチームや海洋大の OB のチームと定期戦があったり、仙台の Over40 のクラブと定期戦があったりと、年に何試合かはやるみたいですが、別に試合をやって勝ちたいとかそういうことじゃなくて、ラグビーやって楽しみたいという人たちの集まりです。結構な年齢の方、もう 70 代とかの方もいらっしゃいます。毎週練習するから上手くなるんですね。本当に楽しそうにされていて、いいなと思って見ています。皆さんが若い頃にラグビーを経験されていたわけではなく、全く未経験の人もあります。もちろん中心になってるのは麻布高校時代にラグビー部だった人たちですが、知り合いとかでやりたいという方が来たら、みんな仲間に入れて。今の練習リーダーになってる人は全くの未経験者ですね。その人がラグビーを好きになってラグビー勉強して、今はキャプテンになって練習メニューなんかを全部作ってますね。

僕は、スローモーションズの話聞いて、やっぱりこれがスポーツなんじゃないの、とすごく強く思いました。やりたい人が集まって、よしやろうぜっていうのがスポーツの原点だと思うので、こういうことが広まっていけばいいなと思っています。サッカーだと今、浦和高校のグラウンドを使って、何曜日か忘れましたが、星空サッカーと言って、夜に、集まった人がその場で何か決めてサッカーをするということを、浦和の総合型地域スポーツクラブの方がされている例はあるんですが、なかなかまだ少ないですね。どうして日本人は、仲間が集まって楽しくサッカーしようぜっていうと、じゃあチームにして登録して、リーグに入って勝つぞってなっちゃうのかなって。そういうのもあってもいいけど、そうじゃないのもあっていいんじゃないの？と、本当に思いました。

(笹原) ちなみに田嶋さんは昔はサッカーやってないですね。

(田嶋) 野球でした。

(茅野) あ、ちょっと一言挟ませてください。おそらくサロンの方は、よくご存知の YCAC ですが、もしかしたら 150 年前の YCAC が今ここ台湾にあるのでは。

(黒田) 同じこと思いました。

(茅野) YCAC、横浜カントリー・アンド・アスレチック・クラブという外国人が主体のクラブ組織で、スポーツも様々な種類のやってるクラブが、横浜開港の頃からあります。それ以前に横浜市全域に 20 いくつかあった外国人のスポーツクラブを、明治政府が山手の丘の上にまとめて、いまだにそこで活動しています。基本的に公用語は英語、通用する通貨はドルという世界でして、サッカーも O-40、O-50 とそろっています。シニアは練習はしなくて、毎週試合ばかりで、かながわクラブも試合相手によく呼ばれました。

(中塚) 実は日本で最初のサッカーの試合は、1904 年 2 月 6 日、日露戦争開戦直前に、東京高等師範、今の筑波大と YCAC の間で行われました。東京高等師範の中村覚之助主将が海外の文献をもとにしてフットボールの練習をしていました。当時実際にフットボールをやっていたのは、横浜と神戸の外人クラブだけです。それで試合を申し込んでやらせてもらい、0 対 9 でボロ負けです。けど、今でも年一回 YCAC と筑波大の交流戦はやっていて、私も毎年参加しています。中村覚之助の名前も覚えておいてください。サロン 2002 の WEB サイトに報告書をあげてますので。

(黒田) 今のお話は、私は横浜じゃなくて神戸の方で喋ろうと思っていました。KR&AC（神戸レガッタ・アンド・アスレチック・クラブ）です。山の上にすごく洒落た外国人クラブがあって、大学の教授サッカーチームと彼らと試合をして、これから続けましょうねって言ったら、神戸の震災があって。今はだいぶ縮小されてしまいました。

JFC の地域貢献という話がありましたが、もっと台湾の人巻き込んでいろいろやって、台湾サッカーの黎明ここに始まるみたいな感じになるといいですね。

(笹原) やっぱり先頭にはトップチーム、プロの人たちがいて、子供たちが憧れる人でありたいっていうのは、櫻内さんもおっしゃっていましたね。日本でも Jリーグができた頃は、カズだ、武田なんかが立派な服着てスポーツカー乗りまわして、ああなりたと思った人が多かったんだけど、台湾のプロ選手はどうですか？

(櫻内) 私が台中で乗ってたのは原付でした。プロの我々が原付でサッカー教室に通って、子供たちがベンツとか BMW とかで来るんです。立場が逆で、ああなりたとは思わないかもしれませんね。でも、僕はカッコいいプレーを見せて、プレーで示せるんで。

(笹原) サインくださいとか言われたりするんですか？

(櫻内) まあ僕はサイン書くのは日常だったので慣れていて、それ用のサインはあるんですけど、台湾の選手は、サインちょうだいって言われて、何書いてるのかなって思って見たら、ただ自分の名前を漢字で書いてるだけ。クレジットカードのサインじゃないぞと思いました。野球選手とかだとわかんないですけど、サインという文化がまだサッカーの選手にないのかもしれないね。子供たちもユニフォームに名前を書いてもらって喜んでます。

でも、僕らにはアカデミーがあって、アカデミーの子供たちはトップの試合も見ますし、ああいう選手になりたいとは思ってくれてると信じています。僕もいろいろ言いましたけど、Jリーグから来た選手ということはチームとして大々的に発表してくれるので、保護者とか子供たちはすぐ名前を覚えてくれます。だから僕はそのような使命を帯びて来た以上、外国人助っ人としてプレーで示さないといけないので、乗ってるのが原付であろうが、ピッチに入ればこれぞプロというのを見せないといけないなと、常に思いながらやっています。

(黒田) それでは、チョウ・ディンになればいいんですね。

(櫻内) ???

(黒田) 日本サッカー黎明期に、英国領だったビルマ、今のミャンマーから日本の東工大に留学に来た方で、関東大震災で大学が被害にあったので、しばらく全国を回ってサッカー指導をしました。ビルマに駐留したのはスコットランドの連隊が中心だったので、サッカーもスコットランドスタイルだったため、彼の指導を受けた日本のサッカー名門校にスコットランドサッカーが広がったという話なんです。神戸の御影師範とか神戸一中、あるいは広島中学とかですね。チョウ・ディンは、日本のサッカー殿堂入りしていますよ。

(笹原) 僕も少しだけミャンマーに駐在したんですけど、仕事でプレゼンテーションをした時、最後にそのチョウ・ディンさんの写真を見せて、この人が今は強くなった日本のサッカーの育て親、私も同じようにミャンマーに貢献したい、などと話したものです。

(櫻内) 本当に台湾のサッカー文化を変えたいと思っているので、年に1、2回は日本からゲストを読んでイベントをしますし、個人として動ける時は、日本人学校での夢先生をしたり、台湾の現地校で指導したこともあります。先日は宜蘭にも行ってきました。それがちょっとずついろんな形で広がればいいなと思っています。最初は滝川二高の黒田先生が台湾サッカーを変えたくて多分来られたと思いますし、僕がJリーグ経験者として来た理由ってというのは、そういうところなのかなって思っています。最初は一年で帰る予定でしたけど、今三年目を迎えています。本当に自分にできることをやっていきたいなと思っています。

(笹原) こうやって、台湾サッカーを変えようという高い志を持ったプロ選手から、まあ楽しもうってプレーをしている人まで、さまざまな立場でサッカーをしている日本人は非常に多いですね。そういったことそのものが、台湾のサッカー文化を変えていくのかなって、今日話を伺っていて思いました。

(中塚) 締める前に、質問も含めた感想を。

今日スロモの活動に参加して、確かに最初はあのグラウンドをほぼ独り占めでしたけど、途中から少年サッカーが隣で始まりました。それもへえーって思ったことですが、我々のところでプレーしていた子たちも、スロモが終わったらそっちに行っている。聞いてみたら、元Kリー

ガーが指導してるようですね。こういうのがいろんなところであるのなら、台湾サッカーもいい兆しだなと思いました。

私は日本でずっと高校生の指導をしてきたわけですけど、少年サッカーがすごく定着してきました。これはすごくいいことなのですが、一方で、日本ではサッカーが「習い事」になってきてるんです。体育の授業で、「サッカーやったことある人」って聞いたら、大部分の生徒は手を挙げるけど、ためらってる生徒もたまにいる。「なんで手挙げへんの？」と聞くと、「習ったことないんで」。だけど「休み時間とか体育の授業でやらへんのか？」って言ったら、「それもいいんですか？」みたいなことを言うわけです。サッカーっていつから習うものになったんやろうと思ってね。I play football やろ、サッカーは遊ぶもんやで、って言ってるんだけど。その原点のところを今朝スローモーションで体験できました。

ということで、質問は、台湾の子どもたちが、子どもたちだけでサッカーして遊んでいるようなシーンはないですか、ということです。

小堀さんが言っていたけど、日本でもサッカーをして遊べる公園が減ってきてるんです。特に都心部で。公園でボール蹴れなかったら、どこでボール蹴ってんのと。

(櫻内) 自分らで遊んでるのをよく見るのはバスケが一番多いのかな。バスケットボールのコートはいろんなところにたくさんあるので。サッカーは、僕は小学校に行って遊びでミニゲームとかしましたけど、台湾ではそういうのはあんまり見たことがないのかな。公園とかでもバスケットボールを持ってる子が多いのかなという印象です。サッカーは本当に習いに行っって、そのチームでやってるイメージが強いかな。僕はまだ2年ちょっとしかいないですけど、公園で自分からサッカーやってる子はほとんど見ませんね。

(嶋崎) ちなみに、国際武道大学の芝生とかは、勝手に子供たちが入ってサッカーとかしてますよ。うちは超田舎なのでフリーなんです。その意味では台湾と一緒にですね。僕は千葉県勝浦市に駐在している駐在員なんです(笑)。

(中塚) ワールドカップでブラジルに負けちゃったけど、世界一になるという志は、日本サッカー界がずっと持ち続けてほしいですね。じゃあ世界一になるためにはどうするのか？ほんまはね、公園や原っぱで、自分たちで遊んでる人たちが、子供からシニアも含めてもっと増えてこなあかんのやろなと思いますね。それと、ブラジルに負けた試合のスタンドが真っ黄色だったので、あれを真っ青にするぐらいにならないと。

(黒田) 関連した質問を最初に鈴木さんにしようと思ったのは、プロを見る観客の話ありましたが、日本人がサッカーしてるっていうのを、一般の台湾の人はどんな目で見てるんですか？変わったことしてるなあと思ってるのか、あるいは、ちょっと俺たちもやりたいなみたいな雰囲気で見てるのか、どっちだろうなと思って。

(鈴木) グラウンドでも、みんながサッカーをしてるわけじゃなくて、他のことで使ってる人も多いので、確かに何やってんだらう、みたいな感じだったとは思いますがね。もう全く未知のことをしているような。

(黒田) やじ馬でちょっと見ようって感じもないんですね。

(田嶋) 台湾は暑いんで。この暑い中、馬鹿じゃない、と思っているかもしれません。

- (鈴木) でも通りすがりの人とかが、例えば原付で走ってる人とかが見るっていうのはあります。時には立ち止まって見てたりして。
- (櫻内) 今もう台湾にはサッカーやられてる方多いです。今日も僕の練習の前に、10 時から練習だったんですけど、8 時から 10 時の間で、それこそ 40 代、50 代の方が 5、60 人集まってコートずっと試合をやってたんです。多分、レベルで分けてると思うんですよ。初心者に近い方は真ん中でコートをちょっと狭めにして、右と左はサッカー経験者の方がガチでやっているという風に。それが毎週土日に朝から行われてます。その後 10 時から僕ら練習だったんですけど、時間が来ても 5 分 10 分ずっとサッカー続けているほど熱が入ってます。
- (鈴木) そうですね、やってる人は多いと思います。ただやれるところが限られてるので、ここはサッカーグラウンドっていうのはもう埋まっちゃって取れないですね。輔仁大学は僕らも時々練習とかやってます。
- (黒田) 熱を入れて練習してた人たちが、その後のプロの練習を一生懸命見るってことではない？
- (櫻内) 僕らがプロだっていうのを認識してるかもわかんないですよ。大学生が練習をしているというイメージなのか。何人かは残って、どんな練習してるんだろう、と見ていますけど、どちらかという、自分の練習が終わったらもう帰るという方の方が多いかな。
正直僕らはプロなんで、そこに日本の環境だったら、自分が練習終わった後にプロが練習すると思えば絶対残って見るじゃないですか。そこがやっぱり台湾でのプロの違いなのかなって。台湾では、周りの人からプロとして認められてない、プロリーグというか、プロというのは存在しないと思われているように感じることもあります。サッカー好きな人でさえも、プロが今から練習するとなっても見ないので、そこはやっぱり大きな違いなのかなっていう。
- (黒田) ますます責任重大だ。頑張って、チョウ・ディンとかジーコにならないと。
- (笹原) 話が盛り上がってきたんですけど、時間も盛り上がってきちゃったので、今日はこの辺で締めさせていただきますと思います。オンラインで参加の皆さんもありがとうございます。それからわざわざ台湾までいらしていただいた皆様、ありがとうございます。最後に、演者の皆さん、本当にどうもありがとうございました。

以上